

## 英語学専攻 English Studies



英語学専攻には、語学、文学、通訳翻訳学の3つの領域があります。

語学領域では、英語を対象言語とし、言語知識体系・認知プロセス・対人交渉など、ことばとコミュニケーションにかかわるさまざまな局面について研究します。

文学領域では、主にイギリス・アメリカその他の英語圏の文学作品を対象にして、そこに用いられた様々な「表現」や「手法」の特徴を手がかりに、作家の思想や世界観について、作品の背景をなす社会や歴史、他の芸術との関わりも視野に入れながら、多様な角度から研究をすすめます。

通訳翻訳学領域では、実際の通訳・翻訳データを分析して理論的考察を加えることや、通訳・翻訳の評価の問題、認知科学的过程の解明などを研究します。

The English Studies Program consists of a Language Unit, Literature Unit, and Interpreting and Translation Unit.

In the Language Unit, students conduct research on various aspects of language and communication, including language knowledge systems, cognitive processes and interpersonal negotiations.

In the Literature Unit, which mainly focuses on literary works in the U.K., the U.S.A. and other English-speaking countries, students conduct research on the thoughts and world views of authors, with their sights also on the intersection of literature with society, history, and other arts.

In the Interpreting and Translation Unit, students offer theoretical speculation by analyzing actual interpreting and translation data, and conduct research on issues of evaluation of interpreting and translation, in addition to clarification of cognitive science processes.

### 授業担当専任 スタッフ Academic Staff Profiles (2019年度担当予定 領域別アルファベット順)

#### 語学 Languages

**本多 啓** (ほんだ あきら) Akira HONDA  
●教授/Professor

認知言語学。英語および日本語の文法について認知言語学の観点から研究しています。とくに生体心理学、発達心理学、社会心理学などの知見を踏まえ、人が環境および他者と関わる関わり方の現れとしての言語の姿を明らかにしていく試みに携わっています。  
Cognitive Linguistics

**那須 紀夫** (なす のりお) Norio NASU  
●教授/Professor

理論言語学、統語論。(i) 移動要素の意味解釈および音声化のパターンに関する研究。(ii) 文の周縁部の構造に関する研究。  
Theoretical linguistics; syntax. Current research topics include: (i) semantic interpretation and phonological realization of copies; (ii) structure of peripheral parts of sentences

**山口 治彦** (やまぐち はるひこ) Haruhiko YAMAGUCHI  
●教授/Professor

談話分析、語用論。なかでも英語や日本語における引用・話法の研究やさまざまなディスコース・ジャンル(ジョーク、漫画、小説など)のテキスト分析が、中心的な研究課題である。

Pragmatics and discourse analysis.

**Franklin CHANG** (フランクリン チャン)  
●准教授/Associate Professor

言語心理学の方法で大人と子供が構文や意味をどのように学習し、使用するのかについて研究しています。これらの認知システムの特徴を理解するため、実験、コンピュータシミュレーション・モデル、コーパス研究などを手段としています。

I use psycholinguistic methods to study how children and adults acquire and use syntactic and semantic knowledge. To study these cognitive systems, we use various means such as experiments, computational models, and corpora research.



#### 文学 Literature

**David Lee FARRAH** (デイヴィッド・リー・ファラ)  
●教授/Professor

American Poetry, Creative Writing, Steinbeck. Current writing and research focuses on the physical nature of poetry as it is expressed through its intersection with the visible landscape, as well as the non-visible, underlying quantum world.

**光永 雅明** (みつな が まさあき) Masaki MITSUNAGA  
●教授/Professor

ヴィクトリア時代を中心とする、イギリス社会史および社会思想史  
Modern British History (Victorian Era: Social History; Intellectual History)

**難波江 仁美** (なばえ ひとみ) Hitomi NABAE  
●教授/Professor

専門はアメリカ文学・比較文学。19世紀末から20世紀初頭、大きく変動する近代アメリカ社会に敏感に反応し、アメリカから脱出して国籍離脱者として一生を終えた作家たちを中心に研究している。対象とする作家には、アメリカからヨーロッパへと向かったヘンリー・ジェームズやイーディス・ウォートン、あるいは東洋(日本)へと向かったラファディオ・ハーンなど。テーマとしては、境界、異界、幽霊、物語。

19th-century. American Literature and Comparative Literature

**新野 緑** (にいのみどり) Midori NIINO  
●教授/Professor

イギリス小説研究。ヴィクトリア朝を中心に、18世紀から20世紀に至るイギリス小説を、小説というジャンルの成立と発展、カントリーハウスの表象、作家の自己成型などの観点から考える。時代の文化的背景と作家の個性の特性とが交差するダイナミックな結節点としての作品のあり方を明らかにしたい。  
British novels and Victorian studies.



**西川 健誠** (にしかわ けんせい) Kensei NISHIKAWA  
●教授/Professor

英米文学におけるキリスト教。主に17世紀イギリスの宗教詩を研究。  
Seventeenth-Century British Poetry (Donne, Herbert, Milton); Twentieth-Century American Poetry (Wilbur, Bishop)

**吉川 朗子** (よしかわ さえこ) Saeiko YOSHIKAWA  
●教授/Professor

イギリス・ロマン派詩人ワーズワスを中心とする近現代英米詩。現在は、ワーズワスの受容のされ方を、文学観光などの文化的・社会的現象との関わりの中で探っている。

Modern English poetry, especially British Romantics, including William Wordsworth. Currently I research on the popular reception of Wordsworth through exploring cultural and social phenomena such as literary tourism and environmental movement.

## 通訳翻訳学 Interpreting and Translation

長沼 美香子(ながぬま みかこ) Mikako NAGANUMA  
●教授/Professor

通訳と翻訳の理論・実践・教育を射程に入れて研究に取り組んでいる。長年にわたり積み上げてきた実践経験を理論的な研究へと開き、教育へと架橋することを試みる。近年では特に、日本の近代を翻訳学の観点から問題化し探究する。

My research includes theory, practice and education in interpreting and translation. Working in the field of education, I have been exploring theoretical studies based on the wide range of my practical experiences as a professional interpreter and translator. Among my current research topics is to problematize Japan's modernization from the view point of Translation Studies.



Adam ACAR(アダム・アカー)  
●准教授/Associate Professor

Cross Cultural Communication: Communication competence and sources of miscommunication in cross-cultural encounters.  
Marketing Communication: Advertising effectiveness.  
Business Communication: Cross-cultural negotiation and compliance gaining styles.  
New Communication Technologies

繁沢 敦子(しげさわ あつこ) Atsuko SHIGESAWA  
●准教授/Associate Professor

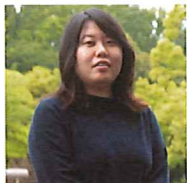
新聞記事やルポルタージュ、各種報告書について、草稿などの一次史料と最終発行物を比較検討し、言説が作られていく過程の分析を行っている。メディアによる報道やメディアに対する検閲のほか、世論や世論操作など、言説の形成に影響を与える要素の働きについて考察し、一つの言説が現れた背景の解明を試みる。

My research focuses on analysis of the process of formation of a narrative by comparing manuscripts and other primary sources with their final forms—published newspaper articles, reportage and reports. By examining the mechanism of the work of each element that influences the formation, such as the media coverage and the censorship of the media, as well as the public opinion and the manipulation of the public opinion, I attempt to explore the background from which the narrative was born.

## 最近の修士論文等のテーマ Recent Master's Thesis Subjects

- Capturing the Essence of the Message: Findings of Translation and Interpreting Projects
- Reading Effects on Speech Production in Japanese English Learners
- Pound's Cantos - the Relationship between Time and Heroic Figures
- Applications of Foreign Language Teaching Methods: Observations in two cases for child and adult learners
- English as a lingua franca in language education in Japan
- The revisional process of translation through functional theory: A project analysis
- 翻訳における受容化と異質化: 翻訳実践への注釈を通して
- 翻訳エラー分析: 「文法訳読」と「翻訳」の差異を中心に

## 院生紹介 Message from a Student



田尻 倫子(2年)  
Tomoko TAJIRI

—なぜ修士課程に進学しようと思いましたか？  
学部の授業やゼミで英語学を学び、その楽しみに触れる中で、卒業論文執筆後ももっと研究を続けたいと思い、修士への進学を決めました。

—神戸市外国語大学の修士課程を選んだ理由を教えてください。  
元々、神戸市外大で英語学について学んでおり、当時の指導教員である山口先生のもとで引き続き研究したいと思ったのが一番の理由です。また、神戸市外大には英語学の各分野を専門とされる先生方が揃っており、様々な言語学のアプローチを学ぶことができるといっても非常に魅力的でした。

—入学する前と後で大学院に対するイメージはどのように変わりましたか？  
大学院の授業は専門的な知識を身につけるためのものというイメージがありましたが、実際の授業では単純に知識を増やすことをということより、批判的に読む力といった研究能力の素地を鍛えることに主眼が置かれているように感じました。

—どのような学生生活を送っていますか？  
1年目には外大で英語学の講義を週に6コマと、単位互換制度を利用して神戸大学の大学院の授業を週に1コマ受講していました。授業外の時間は文献を読んでいることが多いです。また、院生同士で研究内容について意見を交換したり読書会を開いたりもしています。学内では定期的開催される研究発表会では、研究の進捗を他の院生や先生方に見ていただくこともあります。

## モナッシュ大学とのダブル・マスタートープログラム Double Master's Degree Program with Monash University

2015年4月より本学大学院とモナッシュ大学(オーストラリア)の大学院との間でダブル・マスタートープログラムを開始しました。対象となる専攻は、大学院修士課程・英語学専攻の「通訳翻訳学領域」です。

本学大学院の修士課程(課題研究コース)に入学後、1年目をモナッシュ大学の大学院で、2年目を本学大学院で学ぶことにより、2年間の課程修了時に本学大学院とモナッシュ大学大学院の2つの修士号の学位を同時取得できます。詳細は本プログラムのWebページを参照してください。

KCUFS offers a double Master's degree program with Monash University (Australia) in the field of interpreting and translation. In this program, students spend the first year at Monash University and the second year at KCUFS, and are awarded Master's degrees from both upon completion.

[ダブル・マスタートープログラム(モナッシュ大学)]  
<http://www.kobe-cufs.ac.jp/graduate/guide/dmdprogram.html>



## 院生紹介 Message from a Student

—志望動機と受験対策  
通訳・翻訳を大学院で本格的に学ぼうとリサーチして、オーストラリアのモナッシュ大学との間でダブル・マスタートープログラムをもつ神戸市外大を志望しました。なお、モナッシュ大学の授業料は免除されます。私は海外留学奨学金を受給することもできたので、留学準備費用に充てることができました。

—本学での履修について  
地元新聞社の翻訳を担当した際には、翻訳作業の発生から納品までを俯瞰的に見ることができました。また放送通訳クラスでは、ニュース番組を活用した演習を通じて、実践的な研鑽をつむことができました。修了後に放送通訳のトライアルを受けたときには、本番ながらスタジオに入り、とても緊張しましたが、これまでの授業が大いに役に立ちました。大学院での学びを経て通訳・翻訳への理解が深まったほか、今後の仕事へのモチベーションにつながりました。

—志望される方へのメッセージ(本プログラムをおススメする理由)  
進路を考えるにあたり、やりたいことを仕事に結び付けられるかという点で二の足を踏む方もおられるかもしれませんが、将来AIが進歩しても、言語の壁を越えた人と人とのコミュニケーションの重要性は変わらないと思います。外国語が好きな気持ちを大切に、通訳翻訳学の世界に飛び込んでみると視野が広がると思います。

—モナッシュ大学での履修について  
前期は理論を中心に学び、後期は実践的な訓練でした。英語ネイティブの院生とのグループ翻訳作業では、翻訳が単純な語の置き換えではないと痛感しました。通訳翻訳学に力を入れているモナッシュ大学では、博士課程の学生による研究発表も聴講できるほか、学内のイベントを通じて他領域の修士課程の留学生と友達になれるなど、授業外でもさまざまな経験を積むことができます。



梅田 紗由美  
(2017年度修了生)  
Sayumi UMEMEDA